

1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

（ ）月 日 曜日

ヤクスギランド

神山小 六年 萩野 馨

至年の夏休み、埼玉県から来た友達といっ

し、に、ヤクスギランドに行きました。

中に進むにつれ、空気が冷えてきて、木々の

中には、こけにおおわれた木もありました。

裏にぬれたこけが岩や倒木をおおっていて、

とてもきれいで、神秘的でした。

耳をすませば、いろいろな音が来こえてき

ます。川の流れる音、風の音、木々がゆれる

音。小さな森林の音がからみ合い、まじり合

のを聞いてみると、まるで一つの静かな音

楽を聴いているような、不思議な気持ちにな

りました。

歩いていくと、川がありました。少し歩きつ

かかっていたので、立ち止まって川を眺めまし

た。川の水は驚くほど澄んでいて、川底の石

や、泳いでいる小さな魚もよく見えました。

再び歩き始めると、澄みきった冷たい空気が

か、熱くなってきた体をひんやりとっつみこんで

No.

算が

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。
4 書き終わったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)



1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

() 月 日 曜日

くねました。歩いてくと、うっすらと出ほじ
 めた裏の中に、変なヤクスキの大木がありま
 した。足下立っている様に根が柱ええ二つに分
 かれた根の間に大きな穴があいていたのです。
 不思議に思っているとき、国語の教科書に下
 きた文を思い出しました。
 「昔、一本の屋久杉が年老いて倒れました。
 その木は死んでしまいましたが、まだたくさ
 んの栄養をもっていてました。長い年月の間に
 その幹の上に落ちた幸運な種子たちは、倒木
 の栄養をもらって、長い長い年月をかけて、
 ゆっくりと大木に成長していったのです。
 それですぐに分かりました。目の前にある
 変な形の倒木のことか。その根の間にあった
 穴は、栄養をあたえつくして消えていった倒
 木のあとだったのです。
 目の前の変な大木も、いつかは倒れ、たく
 さんの屋久杉の種子たちに栄養をあたえて、
 命をうけつたり下ります。

屋久杉は次の世代へと命をつなぎ、
 木は、

(不許複製)

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。



